

★★★<第19回知的財産翻訳検定試験【第9回英文和訳】>★★★

<<2級>>

問1

発明の実施の形態

本発明の実施形態を以下に記述する。

しかしながら、特に本発明はこれらの実施形態に限定されず、当業者にとって明白な改善およびその等価物をも包含されることが意図されていることに注目されたい。

図1に、本発明の実施形態、すなわち壁のないポータブル飲料保持具1を上方から俯瞰した分解図で図示する。本飲料保持具1は中間部3および底部4を含んでいても良く、これらは、分離不可能なように結合されて単一のユニットを形成している。ある実施形態では、上部2が中間部3に分離可能な態様で取り付け可能とされ、一方で前記中間部3および前記底部4が、モールド法または融合法などによって分離不可能なように相互に取着される。このようにすれば、上部2を用いない場合でも、中間部3と底部4とが単一のユニットとして飲料保持具として単独で機能することができるようになる。

他の実施形態では、上部2は、中間部3の上面へ分離不可能にとり付けられる。このような実施形態では、上部2の底側にある一連の下方へ突出するタブ5を中間部3の上面にあるスロット6へ挿入することによって上部2と中間部3とを互いに分離可能なように取着するための相補的な手段を含んでいてもよい。

問2

背景技術

本発明は、全体として、プルームを横断通過した後受信される無線周波(RF)信号を使用して、火山のプルームを遠隔的に検知するためのシステムおよび方法に関する。特に、本発明は、人工衛星から発信されたRF信号を用いて雲中に包含されている火山のプルームを遠隔的に検知するためのシステムおよび方法に関する。

本明細書において、「火山プルーム」という用語は火山灰の雲を意味するものとし、「火山ガス」という用語は、活火山によって放出されたガスを意味するものとする。火山灰雲が占める体積の外に拡がった火山ガスは、「火山プルーム」の一部として含まれていないものとする。

火山灰は、飛行中のジェット機に危険をもたらし、人々や家畜の健康を脅かし、電子機器や機械類を損傷し、発電や遠隔通信を邪魔する恐れがある。火山灰は、火山によって大気へ噴出された岩の小さなぎざぎざの粒子状物質および天然ガ

ラスを含む。灰は風によって数千マイルも運ばれることがあり、他の火山災害よりはるかに大きな領域にわたって影響を及ぼす。

火山ブルームは、航空機に対して2つの問題を引き起こす、すなわち（a）灰によるエンジンの停止と、（b）灰および腐食性ガスによる航空機の損傷および／または乗員乗客の傷害である。火山灰粒子状物質は極めて大きな研磨性を有する。この火山灰粒子状物質は、岩およびガラスのぎざぎざの粒子状物質であり、ジェットエンジンの内部機構に対して急速な摩滅をもたらす惧れがある。中の高温の部品によってこの灰が融解する可能性があり、融解した灰がエンジンの比較的低温の部品上で再度凝固し、気流を遮断する層を形成して可動部に干渉し、結果的にエンジンを停止させることになる。

問3

【請求項1】

ワイヤ、線材またはプリフォームの形態をしているろう付合金であって、重量パーセントで、リン3から7.5%と、亜鉛0.1から1.9%と、銀5から18%と、金0から80%と、スズ0から10%と、ニッケル0から5%と、残余として銅少なくとも21.7%とを含むろう付け合金。

【請求項2】

トーチろう付を行う方法であって、重量パーセントで、リン3から7.5%と、亜鉛0.1から1.9%と、銀5から18%と、金0から80%と、スズ0から10%と、ニッケル0から5%と、残余として銅少なくとも21.7%を含むろう付け合金を含む合金から形成したワイヤまたはロッドを形成する段階と、第1および第2の素地金属で形成された継ぎ目の表面に接して前記ワイヤまたはロッドの先端を配置する段階であって、前記第1の素地金属が、合金鉄、ニッケルまたはニッケル合金であり、前記第2の素地金属が、合金鉄、ニッケル、ニッケル合金、金、金合金、銀、銀合金、銅または銅合金である段階と、トーチ炎を使用して、前記接合面を加熱し、加熱した接合面へ前記ワイヤまたはロッドの先端を接触させて融解させ、かつ前記合金を接合面上で流動させて毛管作用で継ぎ目へ流入させる段階とを含む方法。

【請求項3】

前記合金が、重量パーセントで、リン3から7.5%と、亜鉛0.6から1.9%と、銀5から18%と、金0から80%と、スズ0から10%と、ニッケル0から5%と、残余として銅少なくとも21.7%とから実質的になる請求項2に記載の方法。